シラバスデータ			2023/4/1
科目名	現代倫理		
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい	
学科	全学科	本学の建学の精神・校訓・教育方針を具現化するための授業。 倫理を基本とした全人教育としての本科目を履修することにより、社会人としての心構え、グローバルな教養を身に付け、有意な人材となることを目指す。	
学年	1年		
コース	ー	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	社会におけるさまざまな規範の根拠について、哲学の誕生から宗教の発展、現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ	
授業回数	32回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	4単位	この授業を学ぶことにより、倫理学の基本的な考え方を身につけ、自己実現を果たすために自分が社会にどのような価値を与えられるかを考え、自己が成長を実感できるようになることを目指す。	
授業担当者	齋藤　照安		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	参考資料：本学「学生の手引き」 CANジャーナル（本学機関誌）、「現代の倫理」（山川出版社）、「ディープな倫理」、「倫理　愛の構造」（東京大学出版会）、オリジナルプリント		
評価方法	前期・後期の試験結果、授業態度、出欠状況を加味した上で、学生の手引きに基づいて評価する。		

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	授業「現代倫理」の趣旨	倫理、道徳、哲学を学ぶ意義
2	日本の道徳教育と問題点	日本の道徳教育と問題点
3	倫理の意味	建学の精神、倫理の意味
4	人間としての自覚	生きがい・モラリストの人間関係
5	古代ギリシャの哲学	タレス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス
6	イギリス経験論と大陸合理論	ベーコン、デカルト、カント
7	ドイツ哲学の全盛期	ヘーゲル、ショーペンパウエル、ニーチェ
8	現代世界への挑戦	ダーウイン、マルクス、デューイ、サルトル
9	古代中国の思想家	諸子百家、孔子、孟子
10	老荘思想	老子(自然の道)　荘子(自由の精神)
11	日本の経営者(1)	松下幸之助　日本式経営と哲学の創出
12	日本の経営者(2)	稲盛和夫　日本航空を再生させた「フィロソフィ」と「アメーバ経営」

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
13	日本の経営者(3)	鈴木敏文 「ブレない視点」をもつ、「シンプル思考」に徹する、心を揺さぶる「伝え方」
14	前期のまとめ	1回目から8回目
15	前期のまとめ	9回目から13回目
16	前期試験	
17	読書のすすめ	読書のすすめの考え方
18	キリスト教	キリスト教の開祖(イエス・キリスト)
19	自身の倫理観を見つめる	童門冬二著PHPより「品格と風土」を読み、考えをまとめる
20	イスラーム教	イスラーム教の開祖(ムハマンド)
21	仏教	仏教の開祖(ブッタ)
22	倫理の発展	現代社会に求められる倫理学　朱子・墨子(戦争否定論)
23	戦争と平和(1)	日本の歩んだ道
24	戦争と平和(2)	戦争後の日本の思想
25	戦争と平和(3)	社会契約説
26	奉仕とボランティア	奉仕活動の意味
27	社会学の理念	社会学とはなにか
28	人間関係について(1)	若者にとっての人とのつながり
29	人間関係について(2)	人間関係によるストレス
30	社会をつくる 家族の絆とは何か	現代社会と社会運動 親子の関係、 核家族化
31	後期のまとめ	17回目から30回目のまとめ
32	後期試験	
32	後期のまとめ	
33	後期試験	

科目名	英語コミュニケーション	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	近頃では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目的とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基本構文の復習および練習を行う。その後、保育園でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1.英語表現の基礎となる文法・構文を運用することができる。 2.保育現場で使用される英語表現を身に付けることができる。
授業担当者	小林昌人	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	英語コミュニケーション(豊岡短期大学)	
評価方法	レポート、科目試験の結果を総合して評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	英語の文法（1）	動詞、形容詞・副詞
2	英語の文法（2）	比較、代名詞、疑問詞
3	英語の文法（3）	進行形、完了形、受動詞
4	英語の基礎構文（1）	5文型
5	英語の基礎構文（2）	修飾語句
6	英語の基礎構文（3）	接続詞、仮定法
7	保育現場で使える英語①	入園準備に必要な英語の学習
8	保育現場で使える英語②	登園・降園に必要な英語の学習
9	保育現場で使える英語③	室内遊びに必要な英語の学習
10	保育現場で使える英語④	外遊びに必要な英語の学習
11	保育現場で使える英語⑤	健康・病気・けがに必要な英語の学習
12	保育現場で使える英語⑥	運動・お散歩に必要な英語の学習
13	保育現場で使える英語⑦	食事に必要な英語の学習
14	保育現場で使える英語⑧	工作・お絵かきに必要な英語の学習

15	保育現場で使える英語⑨	おたより・行事に必要な英語の学習

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	健康科学	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	日常生活においては、テレビ番組、健康雑誌、健康器具などで健康に関する情報があふれており、私たち国民の関心の深さをうかがうことができる。このような状況の中、高齢化社会を迎えているわが国において、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくができるようになることを目的とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	健康科学のテキストにより科学的健康づくりを学ぶ。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。また、救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身に付けるとともに、生涯における健康な生活設計（薬物・アルコール・たばこ・エイズ等）への自己の認識を確立し実践できるようになる。
授業担当者	大橋 美穂子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・健康科学（豊岡短期大学）	
評価方法	・レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） ・科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	健康な生活設計	自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える
2	運動の基礎理論	トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ
3	運動生理学	運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める
4	救命救急	救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ
5	運動処方①	運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ
6	運動処方②	ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ
7	健康日本21	「健康日本21」から自己の健康への課題を探る
8	生活と運動	自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ

科目名	スポーツⅠ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。講義では、健康と安全に留意しながら対人的・集団的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、障害を持つ人ができるスポーツを学び、将来、指導者としての幅を広げ、障がいを持つ人（幼児から高齢者）のスポーツ指導ができるようになる。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	実技	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球を仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。また、障害者スポーツを理解し、障がいを持つ人へのスポーツの指導ができるようになる。
授業担当者	大橋 美穂子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	健康科学（長谷川定宣著）	
評価方法	授業態度、試験等により評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	
2	バレーボール①	基本練習
3	バレーボール②	応用練習
4	バレーボール③	チームゲーム
5	障害者スポーツ①	視覚・知的障害の支援の方法
6	障害者スポーツ②	風船バレーなど
7	バドミントン①	基本練習
8	バドミントン②	シングルスゲーム
9	バドミントン③	ダブルスのゲーム
10	バスケットボール①	基本練習、応用練習
11	バスケットボール②	視覚・知的障害の支援の方法
12	卓球①	基本練習
13	卓球②	シングルスのリーグ戦方式のゲーム
14	卓球③	ダブルスのリーグ戦方式のゲーム

15	ウォーキング	ウォーキングと健康における効果について

科目名	憲法	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる・国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）の構成が学習でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。
授業担当者	橋野 幸男	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	・憲法(豊岡短期大学)	
評価方法	・レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） ・科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	憲法と立憲主義・日本憲法史	憲法とは何か
2	日本国憲法の構成と基本原理	・日本国憲法の校正 ・日本国憲法の基本原理
3	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下の	・基本的人権保障の意義 ・法の下の平等
4	精神的自由権	・思想、良心の自由　他
5	身体的自由権	・奴隷的拘束、苦役からの自由　他
6	経済的自由権	・職業選択の自由　他
7	社会権	・生存権、労働権　他
8	参政権と国務請求権	・参政権、国務請求権　他
9	統治機構について	統治機構の基本原理
10	国会と立法権	・国会の地位と性格、国会の組織
11	内閣と行政権	・内閣の地位と性格、内閣の組織
12	裁判所と司法権	・裁判所の地位と性格、司法権の独立
13	財政	・財政の基本原理
14	地方自治	・地方自治の本旨

15	憲法改正	・憲法改正の意義

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	情報リテラシーと処理技術Ⅰ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。
授業回数	8単位	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	レポート：IoT機器の１つであるネットワークカメラについて理解し、適切に使用できるようになる。 科目試験：情報通信技術（ハード・ソフト）について理解し効果的に活用できるようになる。
授業担当者	中村　健太郎	
実務家教員	○	IT企業でシステムエンジニアとしての実務経験
使用テキスト 参考文献	「情報リテラシーと処理技術」(豊岡短期大学)	
評価方法	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	情報化社会	情報化社会とはどのような社会か
2	コンピュータの発展	パーソナルコンピューター（PC）の発達史
3	ハードウェア	コンピュータの五大機能
4	ソフトウェア	オペレーティングシステム、プログラミング言語、アプリケーションソフトウェア
5	情報ネットワーク	情報通信とディジタル化
6	インターネット	インターネットのしくみ
7	情報システムの課題	情報セキュリティとは、情報が変えていく社会
8	IoT機器	ネットワークカメラを含めたIoT機器について

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	保育原理	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	保育とは何か、保育の基盤としてのこども観を考え、こどもの成長と発達に寄り添っていく保育士・幼稚園教諭を目指す。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	保育の基本的な考え方やこども観の形成、人格形成の基盤作りをどのように考えるか。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	保育のねらい、内容、方法を理解する。
授業担当者	山本　佳郁代	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト・「幼稚園教育要領」および「同解説」(文部科学省)・「保育所保育指針」および「同解説」(厚生労働省)・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および「同解説」(内閣府)・その他配布資料	
評価方法	提出物・発表内容・試験結果を総合的に判断する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／保育とは	保育とは／保育の意義及び目的について学ぶ
2	子どもの権利について	子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ
3	家庭との連携について	連携の方法、保護者との関係づくりについて学ぶ
4	保育の社会的意義について	子どもの人権の尊重、地域交流と説明責任について学ぶ
5	保育の基本について	保育所保育指針における保育の基本について学ぶ
6	環境による保育について	環境を通して行う保育について学ぶ
7	発達に応じた保育について	乳幼児期の発達の特性、発達に応じた保育について学ぶ
8	養護と教育について	養護と教育の一体性について学ぶ
9	保育の計画について	保育の計画の必要性・評価について学ぶ
10	子どもの健康と安全について	子どもの健康・安全保育について学ぶ
11	保育の思想と歴史的変遷について	欧米の保育思想の展開と保育施設の発展について
12	保育の制度について	保育所・幼稚園の役割・制度と現状について
13	認定こども園	認定こども園の設立背景、制度と現状について
14	保育の現状と課題について①	日本の保育の現状について学ぶ
15	保育の現状と課題について②	欧米の保育の現状について学ぶ

科目名	教育原理	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること、及び学校教育に関する社会的制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	世界および日本における教育の基本概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、教育や学校の変遷を学んでいく。また、現代の教育にまつわる諸問題にも知識と理解を持つ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1.教育原理に関する知識を習得・整理するとともに、その基本について自分の言葉で説明できる。 2.現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みについて理解し、自分の言葉で説明できる。 3.学校と地域の連携など今日的課題についての意義や必要性を理解する。
授業担当者	後藤明子	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト　・幼稚園教育要領解説　・保育所保育指針解説	
評価方法	レポート、科目試験の結果を総合して評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	教育とは何か	教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性
2	世界の教育思想①	ソクラテスからルソーの教育思想・実践について学ぶ
3	世界の教育思想②	フレーベルからデューイの教育思想・実践について学ぶ
4	日本の教育思想	教育の理念・教師という仕事について
5	子どもの権利	「子どもの権利条約」、子どもの貧困について学ぶ
6	制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園	保育所、幼稚園、認定こども園について制度的面から学ぶ
7	日本における教育の歴史的変遷	古代から現代までの歴史的変遷について学ぶ
8	公教育制度、義務教育制度	憲法や根拠法と関連付けながら、公教育制度の概要と、義務教育について学ぶ。
9	内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園	保育所、幼稚園、認定こども園について特徴や違いに着目して学ぶ
10	教育における今日的課題①	テーマ：学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化
11	教育における今日的課題②	テーマ：「育みたい資質能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
12	教育における今日的課題③	テーマ：園・学校の安全管理
13	子どもの問題と社会の課題①	幼稚園・保育所・小学校の連携と接続
14	子どもの問題と社会の課題②	グローバル化の進展と幼児教育、地域・園外との連携

15	教育の意義と理論	これまでの学習を元に、生涯学習社会における教育の意義について理解する

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	社会福祉論	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	現代社会における社会福祉の意義や現状と課題、子ども家庭福祉との関係などについて理解する。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解する
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	保育士として社会福祉はなぜ必要なのか学ぶ意味を理解する
授業担当者	後藤　明子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト	
評価方法	授業態度・提出課題および試験結果を総合的に判断する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	社会福祉論で学ぶこと
2	社会福祉の理念と概念について	社会福祉とは　人権について　ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン
3	社会福祉の歴史的変遷	欧米と日本の社会福祉の歴史
4	社会福祉の制度と実施体系①	生活保護法　生活困窮者自立支援法　子どもの貧困対策の推進に関する法律
5	社会福祉の制度と実施体系②	こども家庭福祉
6	社会福祉の制度と実施体系③	障害者福祉
7	社会福祉の制度と実施体系④	母子・父子福祉　地域福祉
8	社会福祉の制度と実施体系⑤	社会福祉行財政と実施機関
9	社会福祉の制度と実施体系⑥	社会福祉施設と福祉専門職
10	社会福祉における相談援助①	相談援助の理論
11	社会福祉における相談援助②	相談援助の実際
12	社会福祉における利用者保護	社会福祉における利用者保護に関わる仕組み
13	社会福祉の動向と課題①	共生社会の実現に向けて
14	社会福祉の動向と課題②	少子高齢化　共生社会　いずれかの課題についてレポート作成
15	社会福祉の動向と課題③	少子高齢化　共生社会　いずれかについてレポート作成　提出

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こども家庭福祉	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	こども家庭福祉の意義や役割について理解する
学年	1年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	こども家庭福祉の意義と歴史、権利擁護、それに係る法制度や実施体系等について理解する。また、こども家庭福祉の現状と課題について、少子化対策や虐待防止、貧困家庭や外国籍の子どもや家庭への対応等の視点で理解する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	保育士がこども家庭福祉を学ぶ意味を理解する
授業担当者	後藤　明子	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト	
評価方法	授業態度・提出課題および試験結果を総合的に判断する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	こども家庭福祉を学ぶ意味について	授業ガイダンス 現代社会におけるこども家庭福祉の理念について学ぶ。
2	こども家庭福祉の歴史的変遷	特に明治時代以降のこども家庭福祉の変遷について学ぶ。
3	現代社会と子ども家庭福祉について	現代の子どもを取り巻く社会における問題について学ぶ。
4	子どもの人権について	子どもの人権の歴史的変遷および児童の権利条約までを学ぶ。
5	子ども家庭福祉の制度と法体系について	児童福祉六法および関連法について学ぶ。
6	子ども家庭福祉の行財政について	児童相談所について学びます。
7	子ども家庭福祉の専門機関について①	児童福祉施設(保育所を除く)について学びます。
8	子ども家庭福祉の専門機関について②	保育所の機能・役割について学びます。
9	子ども家庭福祉の専門職について	行政および児童福祉施設等で働く専門職・実施者について学びます。
10	少子化と子育てサービスについて	母子保健サービスにはどのような内容があるのかについて学ぶ
11	児童の健全育成・社会的養護について	健全育成施策および児童虐待防止法、DV防止法について学ぶ
12	障がいのある子への対応について	障がい児の現状、障がい児支援の方向性について学ぶ
13	少年非行等への対応について	少年非行の現状、対応、今後の課題について学ぶ
14	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	貧困家庭の子どもへの対応、ひとり親家庭の状況と支援、外国籍の子どもとその家庭への対応について学ぶ
15	こども家庭福祉の動向と展望	諸外国における少子化の状況とその対応および子育て支援について学ぶ

科目名	こども家庭支援論	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	子育て家庭をめぐる状況は様々な困難さを生んでいる。保育者としてその問題を捉え、子育て家庭支援に取り組む力を身に付けて行きたい。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携などを学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
授業担当者	後藤明子	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	全国社会福祉協議会　『最新　保育士養成講座　第10巻　　子ども家庭支援　－　家庭支援と子育て支援』	
評価方法	・授業態度および提出物・試験結果を総合的に判断する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	子ども家庭支援の意義と役割①	子ども家庭支援の意義と必要性
2	子ども家庭支援の意義と役割②	子ども家庭支援の目的と機能
3	保育士による子ども家庭支援①	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義
4	保育士による子ども家庭支援②	子どもの育ちの喜びの共有
5	保育士による子ども家庭支援③	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の支持
6	保育士による子ども家庭支援④	保育士に求められる基本的態度
7	保育士による子ども家庭支援⑤	家庭の状況に応じた支援
8	子育て家庭に対する支援の体制①	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
9	子育て家庭に対する支援の体制②	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
10	多様な支援の展開と関係機関との連携①	子ども家庭支援の内容と対象
11	多様な支援の展開と関係機関との連携②	保育所等を利用する子育て家庭への支援
12	多様な支援の展開と関係機関との連携③	地域の子育て家庭への支援
13	多様な支援の展開と関係機関との連携④	要保護児童およびその家庭に対する支援
14	子ども家庭支援に関する現状と課題①	制度・行政上の仕組みにおける課題
15	子ども家庭支援に関する現状と課題②	子育ち・子育てに対する社会の意識

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	社会的養護Ⅰ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	社会的養護の基本的な仕組みを知り、社会的養護における児童支援の基本を理解する。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	社会的養護の仕組み、各施設の目的、対象とする児童など社会的養護の基礎的な内容について学習し、子どもの権利擁護や保育士の倫理責務の理解を深める。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1 社会的養護の意義や歴史について理解し、現状と課題についての概要を説明できる。 2 子どもの権利擁護という視点を踏まえた、社会的養護の基本理念を理解する。 3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
授業担当者	竹松　敏雄	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・豊岡短期大学指定テキスト 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）	
評価方法	レポート、授業態度、科目試験の結果を総合して評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	保育と社会的養護	社会的養護とは何か、保育士と社会的養護の関係
2	社会的養護の意義	社会的養護の理念と概要
3	社会的養護の歴史的変遷	日本及び西洋における社会的養護の歴史的変遷
4	子どもの人権擁護	子ども観の変遷と児童の権利に関する条約など
5	社会的養護の方向性	社会的養護の方向性と7つの基本原則
6	保育士の倫理と責務	倫理要綱の具体例と保育士の行動規範
7	社会的養護の制度と法体系	社会福祉の基礎構造改革と社会福祉に関する法律
8	社会的養護の制度と実施体系	社会的養護の仕組みと各支援機関（児童相談所、児童家庭支援センターなど）の役割
9	社会的養護の対象	子どもを取り巻く現状と児童虐待
10	家庭養護と施設養護	里親制度と施設養護の現状
11	社会的養護にかかわる専門職	社会的養護にかかわる施設の専門職と機関の専門職
12	社会的養護に関する社会的状況	社会の変化と社会的養護の現状
13	施設の運営管理	施設の安全管理と措置制度
14	被措置児童等の虐待防止	被措置児童虐待の状況と虐待防止
15	社会的養護と地域福祉	求められる福祉施策の方向性と地域福祉サービスの在り方

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	発達心理学	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	本授業は、私たち人間の発達、特に乳幼児期を中心とした子どもの心身の発達に関する心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深め、保育における他者との相互的関わりや体験、環境の意義を理解することを目的とする。
学年	1年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、および生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達的知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	（1）乳幼児期を中心とした人間の発達についての心理学的基礎知識について説明できる。 （2）特に乳幼児期における学習・学びに必要な、体験や環境などの意義について理解している。 （3）習得した知識をどのように保育・教育実践において活かすことができるか考えることができる。
授業担当者	吉田　哲也	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	「新 保育士養成講座 保育の心理学」(全国社会福祉協議会)・「発達心理学」(豊岡短期大学テキスト)・「幼稚園教育要領」および「同解説」(文部科学省)・「保育所保育指針」および「同解説」(厚生労働省)・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および「同解説」(内閣府)	
評価方法	発達についての心理学的基礎知識を問う筆記試験(授業の目標1)40%、発達と保育・教育実践との関わりについてのレポート（授業の目標2および3）60%の計100%で評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス・子どもの発達を理解する意義	保育における心理学の位置づけ
2	発達を支える諸要因	子どもの発達と環境について考える
3	発達についての諸理論と生涯発達について	発達についての諸理論と生涯発達について
4	発達過程の概観(1)	乳幼児期の発達
5	発達過程の概観(2)	児童期から青年期の発達
6	発達過程の概観(3)	成人期から老年期の発達
7	子どもの発達過程(1)	情動の発達と自我
8	子どもの発達過程(2)	運動機能・身体機能の発達
9	子どもの発達過程(3)	認知能力の発達
10	子どもの発達過程(4)	言語の発達
11	子どもの発達過程(5)	他者との関わりの発達
12	子どもの学びと保育(1)	子どもの学びに関わる諸要因
13	子どもの学びと保育(2)	子どもの遊びと学び
14	子どもの学びと保育(3)	体験と環境の相互作用
15	まとめ	保育・教育実践でどのように知識を活用するか

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもの発達と家庭支援	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家庭関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
学年	1年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について習得する。生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
授業担当者	杉山 有美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト	
評価方法	授業態度、レポート課題の内容および試験にて成績を評価	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	生涯発達について	保育における心理学、発達、遺伝と環境について学ぶ（ZOOMによるリモート授業）
2	愛着関係について	愛着関係と愛着行動、アタッチメントの重要性について学ぶ
3	乳児期・学童期における発達	各段階における発達上の特性、課題・現代的特徴として指摘される現象について学ぶ
4	成人期・老人期にかけての発達	各段階における発達上の特性、課題・現代的特徴として指摘される現象について学ぶ
5	家族・家庭の理解	家族・家庭の意義と機能、これからの家庭教育の在り方について学ぶ
6	親子関係・家族関係の理解	親子関係・家族関係の現状と問題点・家族関係の形態について学ぶ
7	子育ての経験と親としての育ち	子ども・子育て支援法に基づく基本方針、子どもの育ちに関する理念について学ぶ
8	子育て家庭に関する現状と課題	家庭教育の現状、地域・家庭の変化、家庭支援上の課題、家庭教育支援について学ぶ
9	子育てを取りまく社会的状況	家族の形態、子育て家庭の変化、子どものいる世帯の状況、親育ちの子育て支援について学ぶ
10	ライフコースと仕事・子育て	女性のライフコースの多様化、少子化対策のこれまでの取り組みについて学ぶ
11	多様な家庭とその理解	家庭教育支援、社会や地域ぐるみの家庭教育支援について学ぶ
12	特別な配慮を要する家庭	児童虐待、ひとり親家庭、障害がある子どもと家庭、外国籍の家庭支援について学ぶ
13	子どもの精神保健とその課題	子ども鯛の生活と家庭や地域社会の現状、子どもたちの生活の現状について学ぶ
14	家庭や地域社会の現状	家庭の現状、地域社会の現状、子どもを取り巻く状況、子どもの貧困について学ぶ
15	子どもの心の健康に関わる問題	障害児、発達障害、各障害の定義・特性について学ぶ

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもと人間関係	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	「保育者として向き合う人との関係」に目を向け、人との協働について考え「保育内容における人間関係」についての基礎の習得を目的とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	子どもたちの世界には、数えきれない様々な経験・体験、人間関係が溢れている。それを支える保育者としてのかかわりについて学んでいく。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。
授業担当者	井上 充子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針（解説書含む） ・保育内容人間関係 岸井慶子・酒井真由子　編著	
評価方法	授業態度と試験の結果を総合して評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	保育内容における領域「人間関係」の位置づけ	人間関係の始まりと愛着
2	道徳性の芽生えを培う	・つまずきと葛藤の中で育つ力 ・ルール・決まり事の意味・意義
3	子どもを取り巻く人々と人間関係	様々な視点から見る人間関係
4	乳幼児期における人間関係	保育者に求められる役割
5	あそびの中で育つ「人間関係」	あそびの意義と人間関係、あそびの発展と人間関係
6	保育者とこどもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり
7	個性的な子どもと人間関係	子どもの育っていくプロセスにおける特別な配慮
8	領域「人間関係」からみた小学校との連携	小学校との連携から保育を考える

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもと言葉	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とし、言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢などについて理解する。また、保育者の言葉の在り方について理解する。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	具体的な体験を通して豊かな言葉を育むために、言葉の発達に関する「理論」と、言葉の発達を援助する「実践」の両面から検討する。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	言葉を使うことの喜びや表現する楽しさを感じられるように支援するために、共感の態度を持ち、広い視野から言葉の問題にアプローチできるようになる。
授業担当者	井上 充子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針（解説書含む）、プリント ・保育内容「言葉」 内藤知美・新井美保子 編著	
評価方法	授業態度と試験の結果を総合して評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	言葉とは何か きくこと、はなすこと、読むこと、書くこと	・言葉をめぐるワークショップ ・保育における言葉の発達
2	領域「言葉」のねらい及び内容	領域「言葉」と保育実践とのつながり
3	カードを使ったことば遊び	制作と実践保育体験
4	小道具を使ったことば遊び	制作と実践保育体験
5	絵本の種類と選択方法	子どもの育ちと絵本、絵本の楽しみ方
6	読み聞かせの方法と留意点、実践発表	読み聞かせの環境を考える、グループワーク
7	「図書だよりを作ろう」教材研究・構成	教材研究・構成
8	「図書だよりを作ろう」	発展・作品発表会・評価

科目名	こどもと音楽表現	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	・ピアノ演奏や楽器演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようになる。 ・保育の現場で役立つ技術や表現力の獲得を目標とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	保育の現場で必要な基本的なピアノ奏法の取得を目指して、幼児歌曲などの弾き歌いを用いて学ぶ。それぞれのレベルが異なるため、レベルに合わせた指導を行う。 子どもの発達段階に応じた楽器選びや奏法を学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	バイエル2曲・指定の弾き歌い5曲を課題とする。
授業担当者	山本　佳郁代	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	「こどもと音楽表現」ピアノ・ソルフェージュ　　西野　洋子　著　　豊岡短期大学	
評価方法	課題曲等の達成度を総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、楽譜確認、課題曲の提示	授業概要を説明し、豊岡短期大学の課題曲を提示する。 豊岡短期大学の課題曲（バイエル、ソルフェージュ）の音符の確認を行う。
2	弾き歌い実践	◯課題曲の各自練習を行う。 ◯一人ひとりの進捗状況を確認する。 ◯課題曲がある程度弾けるようになった学生は、季節の歌や生活の歌の練習を行う。 ◯生活の歌、季節の歌等のレパートリーを増やす。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	課題確認 ピアノ	バイエル2曲の確認試験を行う。
15	課題確認 ソルフェージュ	ソルフェージュ2曲の確認試験を行う。

科目名	こどもと身体表現	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	教師にとって、他者との関係作りは大切である。他者としての教師や児童とどのような人間関係を作れるのかによって、教育効果は大きく変わってくる。この人間関係作りにおいて、大切になる多様な自己表現について学び、具体的な方法に触れ、理解する。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	グループワークを中心に、創作劇などの具体的な自己表現活動を取り入れる。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	1.子どもの表現の特性や、保育者としての援助について理解する。 2.自己表現における言語的要素について理解する 3.自己表現における身体的要素について理解する。 4.グループワークなどによる人間関係形成力を身に着ける。
授業担当者	廣瀬　絵美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・幼稚園教育要領　・保育所保育指針（解説書含む） ・プリント	
評価方法	発表内容、レポートの結果を総合して評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の目的・ねらい、評価方法や今後の授業スケジュールについての説明
2	領域「表現」の理解	幼稚園指導要領・保育所保育指針における「表現」の扱いについて
3	身体表現①	幼児体操について、指導のポイントや留意点を学ぶ。
4	身体表現②	幼児向けダンスについて、指導のポイントや留意点を学ぶ。
5	音楽表現①	童謡の振り付け
6	音楽表現②	歌あそび
7	発達から考えるこどもの表現	表現とこどもの発達について
8	人間関係の構築における自己表現	コミュニケーションに役立つゲームや歌あそび
9	劇づくり①	グループに分かれ、話し合いながら短い劇の台本を作る。
10	劇づくり②	グループに分かれ、作った劇の台本を元に練習・発表する。
11	身体表現と音楽表現	童謡をモチーフに、ストーリーを持たせた振り付けを行う
12	様々な「表現」	子どもの表現の特性について・子どもと五感
13	グループワークによる創作劇実践①	子ども向け作品の計画・準備
14	グループワークによる創作劇実践②	子ども向け作品の制作・練習

15	発表・総括	劇作品の発表を行い、互いに講評し合う。

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	乳幼児保育Ⅰ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	基礎的な事項（理念や現状、体制など）の理解を深めた上で、具体的な保育の方法や環境の構成等を学び、保育の実践力を習得する
学年	1年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	乳幼児の発達の法則、発達的特徴、及び乳幼児の援助について具体的に理解できる
授業担当者	杉山　有美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト	
評価方法	授業態度、レポート課題の内容および試験にて成績を評価	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	乳児保育の意義、保育士の専門性・保育所の歴史について学ぶ（ZOOMによるリモート授業）
2	乳幼児保育の役割と機能	何を育てていくのか、何を支援するのかを学ぶ
3	乳幼児保育における養護及び教育	養護と教育の一体性・保育における養護とは・保育における教育とは何かを学ぶ
4	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	子育て家庭をめぐる社会の変化・地域子育て支援について学ぶ
5	保育所における乳児保育	乳児保育の基本・乳児の保育内容について学ぶ
6	保育所以外の児童福祉施設(乳児院)における乳児保育、家庭的保育等における乳児保育	乳児院の1日、入所の背景・小規模保育所などの現状と課題について学ぶ
7	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	家庭を取り巻く環境の現状・地域の子育て支援の現状と課題について学ぶ
8	3歳未満児の生活と環境	食生活とその環境・睡眠とその環境・排泄とその環境について学ぶ
9	3歳児未満児の遊びと環境	発達を促す遊び・発達に合った遊び・環境構成について学ぶ
10	3歳児以上児の保育に移行する時期の保育	幼児クラスに進級するために注意すべき点・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶ
11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	見えにくい心の育ちの保障・育児担当制保育について学ぶ
12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	どのようなところを配慮するのか、事例を通して学ぶ
13	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	指導計画の種類、注意事項・記録の取り方・評価の方法について学ぶ
14	職員間の連携・協働、保護者との連携・協働	連携の実際の事例を通して学ぶ・具体的な連携について学ぶ
15	自治体や地域の関係機関等との連携・協働	専門機関について・連携する時の心構えについて学ぶ

科目名	保育実習指導Ⅰ(保育所)	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	通年	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	実習の流れ・心得を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。
授業担当者	杉山　有美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	成長し続ける教育・保育実習 浦田雅夫編著 教育情報出版	
評価方法	授業態度、提出物を総合的に評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	保育実習の意義と目的	保育実習のねらい、意義、流れについて学ぶ(後藤)
2	実習について	実習生としての態度・姿勢について学ぶ(後藤)
3	実習での子どもとのかかわりについて	保育園に在園する子どもの年齢・かかわり方について学ぶ(ZOOMによるリモート授業)
4	観察の視点 日誌について	実習での観察の視点について具体的に学ぶ
5	実習日誌(記録)の意義	記録の種類・記録を書くねらいについて学ぶ
6	実習日誌について	時系列の日誌の書き方について学ぶ
7	実習日誌について	環境構成の書き方について学ぶ
8	小規模保育園について	小規模保育園で生活する子どもたちについて学ぶ(後藤)
9	0歳児の保育について	0歳児の発達、個人差・かかわり方、援助方法について学ぶ
10	1歳児の保育について	1歳児の発達、個人差・かかわり方、援助方法について学ぶ
11	2歳児の保育について	2歳児の発達・基本的生活習慣の獲得・遊び・援助方法について学ぶ
12	3，4，5歳児の保育について	3，4，5歳児の発達、遊び・異年齢の遊びなどについて学ぶ
13	指導計画案について	指導計画とは何なのか・指導計画案を書く意義について学ぶ
14	指導計画案の作成	テーマを決めて実際に指導計画案を作成する

15	実習生の心得・ 個人票作成　下書き	保育実習Ｉに向けて個人票の作成を行う

科目名	教材研究Ⅰ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	幼児教育における教材を理解し、幼児期にふさわしい保育の方法及び教育目標に適した教育技術の理論と実践のための教材を考える。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	1.教育の方法を具現化する教材との関係の理解 2.さまざまな保育形態や保育環境を踏まえた教材選定及び教材研究の理解
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・保育教材の研究の仕方を理解する。 ・保育のねらいや活動にふさわしい教材を選択する力を身につける。 ・保育教材の開発をする。
授業担当者	山本　佳郁代	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	制作物等を総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	保育における教材の意味について「教材研究とは」／春の壁面制作
2	職場体験に向けて保育教材制作	自己紹介グッズ「作案」
3	職場体験に向けて保育教材制作	自己紹介グッズ「制作」
4	職場体験に向けて保育教材制作	自己紹介グッズ「制作」「完成」
5	保育教材制作	自己紹介グッズ　実演「発表」
6	壁面制作	6月・7月の壁面制作
7	壁面制作	8月・9月の壁面制作「夏・秋の壁面」
8	保育教材制作	パネルシアター 「作案」
9	保育教材制作	パネルシアター 「制作①」
10	保育教材制作	パネルシアター 「制作②」
11	保育教材制作	パネルシアター 「完成、発表、考察、評価」
12	日本の文化①	日本の文化「行事・二十四節季」
13	日本の文化②	日本の文化「行事・二十四節季」 発表
14	壁面制作	10月・11月・12月の壁面制作「秋～冬」
15	壁面制作	1月・2月・3月の壁面制作「進級・卒園」

科目名	スポーツⅡ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	体を動かすことや友人同士が協力し合い心と体の健康について考える。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	スポーツ大会への参加及び体を使ったゲームやスポーツを体験する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	スポーツがもたらす効果について自ら考えられるようになる。
授業担当者	山本佳郁代	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	なし	
評価方法	・大会参加及び製作物等を総合的に判断する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	受業の内容　目的　進め方について／学校の近隣をウォーキングする
2	体を動かす	森下公園にて体を使った遊びを行う
3	遊びの計画	乳児向け室内遊びの計画を立てる
4	遊びの制作①	『秋祭り』に向けた室内遊び（乳児向け）の制作
5	遊びの制作②	『秋祭り』に向けた室内遊び（乳児向け）の制作
6	遊びの実際①	保育園の子どもたちに『秋祭り』を開催する
7	遊びの実際②	保育園の子どもたちに『秋祭り』を開催する／振り返り（まとめ）
8	春季スポーツ大会に参加（校外活動）	各競技に参加する
9		
10		
11		
12	秋季スポーツ大会に参加（郊外活動）	各競技に参加する
13		
14		

15		

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	情報リテラシーと処理技術Ⅱ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	ワープロ・表計算ソフトの基本操作ができるようになる。
授業担当者	中村　健太郎	
実務家教員	○	IT企業でシステムエンジニアとしての実務経験
使用テキスト 参考文献	「情報リテラシーと処理技術」(豊岡短期大学)	
評価方法	スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	Windowsの基本操作、PCの活用方法	電源、タイピング、マウス操作、よく使う機能の用語の紹介、インターネットでの検索方法、画像等の著作権等について
2	文書作成の基本①	園だよりを実際にWordで作成 ページ設定、書式設定、表・図形・画像の挿入・編集、レイアウト調整などの技術を学ぶ
3	文書作成の基本②	
4	文書作成の基本③	
5	表計算の基本①	出勤簿を実際にExcelで作成 ページ設定、書式設定、計算式、関数、グラフ機能などの技術を学ぶ
6	表計算の基本②	
7	表計算の基本③	
8	プレゼンテーションの基本	簡易的にパワーポイントのスライドを作成

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	教育心理学Ⅰ	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	教育心理学は、教育ととくに乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える動機付け、指導方法と実践活動ついて学びを進めていく。取り囲む人的物理的な環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達的特徴や遊びを通した変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	レポート：教育心理学における動機づけのしくみを理解し、教育・保育場面での活用方法を説明することができる。 科目試験：教育心理学における基礎的知識を理解し、概説することができる。
授業担当者	吉田 哲也	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・教育心理学（豊岡短期大学）・幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ・保育所保育指針解説（フレーベル館）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）	
評価方法	・学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） ・科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	教育心理学を学ぶ意義	①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義　（Zoomによるリモート授業）
2	発達の考え方とその理解	①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達的特徴（運動、言語、認知、社会発達）
3	学習の仕組み	①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用
4	主体的な学習を支える「やる気」	①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感
5	集団での学習とその評価	①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義
6	動機付けからみる発見学習の仕組み	①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由
7	教育心理学に基づく保育実践	①実践計画
8	教育心理学に基づく保育実践	②計画に基づいた実践報告

シラバスデータ			2023/4/1
科目名	教育心理学Ⅱ		
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	教育心理学は、教育ととくに乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える動機付け、指導方法と実践活動ついて学びを進めていく。取り囲む人的物理的な環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。	
学年	1年		
コース	ー	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	スクーリング：教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。	
授業回数	8回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達的特徴や遊びを通した変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。	
授業担当者	吉田 哲也		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	・教育心理学（豊岡短期大学）・幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ・保育所保育指針解説（フレーベル館）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）		
評価方法	科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	発達課題に応じたかかわり	①各段階の発達的特徴 ②エリクソンの発達課題
2	子どもから大人への思考様式の変化	①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴
3	学びを支える記憶	①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化
4	子どもの学びの姿	①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践
5	子どものやる気を引き出す指導の在り方	①指導者の態度（ピグマリオン効果） ②様々な学習形態とその効果
6	子どもの遊びの重要性	①遊びの変化 ②遊びを通した社会性の発達
7	子どもと道徳	①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法
8	教育心理学を用いた環境づくり	指導案作成

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもの指導法「人間関係」	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。 また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	スクーリング： 1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。 3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。
授業担当者	井上 充子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ・保育所保育指針解説（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）	
評価方法	スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	領域「人間関係」	ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割
2	保育者としての環境作りと評価	・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） ・保育構想と指導案（模擬保育）
3	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助①	対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫
4	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助②	個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫
5	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③	・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫
6	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④	・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点
7	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤	・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）
8	地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画	情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもの指導法「言葉」	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	1.「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び（わたべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイマジネーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 言葉に問題があったり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解することを目的とする。
学年	1年	
コース	ー	
開講時期	前期	授業全体の内容の概要
授業回数	8回	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図ることができるようになる。 2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。 3. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 4. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。 5. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。
授業担当者	井上 充子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・幼稚園教育要領解説　・保育所保育指針解説書　・幼保連携型こども園教育・保育要領解説（フレーベル館） ・子どもとことば」岡本夏木著（岩波新書）	
評価方法	スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	幼児教育と言葉	・言葉とは何か・生活と言葉（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり
2	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての	・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み
3	言葉を豊かに育む活動（1）	・言葉遊びに関する教材制作「かるた制作」（グループ制作）
4	言葉を豊かに育む活動（2）	・言葉から文字へ 、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用及び教材の活用）及び模擬保育体験
5	保育者と言葉のあり方	・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応
6	言葉を豊かに育む活動（3）	・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成
7	言葉を豊かに育む活動（4）	・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育
8	年間授業計画	・言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもの指導法「リズム表現」	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通した感性や人間力の育成を目指す。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう指導援助者としてあるべき姿を追求していく。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	スクーリング：保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。
授業担当者	三井　由美子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 （フレーベル館）	
評価方法	科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	領域「表現」についての基本的な考え方	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解
2	基礎リズム	①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解
3	基本動作	①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ②日常生活が表現につながる可能性に気づき観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践
4	タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解	①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践
5	楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成	①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成
6	領域「表現」と小学校教科等のつながり	①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について ②領域「表現」と小学校教科等とのつながり
7	表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り	①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 ②保育構想発展のための相互発表による振り返り
8	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	①幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践 ③保育構想発展のための相互発表による振り返り
8	年間授業計画	・言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	こどもの指導法「音楽表現」	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。
授業回数	5回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位(3年間)	感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。
授業担当者	小関　宏美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト	
評価方法	授業態度・出席率・課題達成度・実技試験	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	目標とねらい・内容の理解	表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践
2	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解	表現活動における伴奏の方法と実践
3	楽器による表現方法	楽器による表現方法及び伴奏方法
4	声の仕組み、表現活動の理解	乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法
5	0, 1, 2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	造形表現論	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解する
授業担当者	山本　佳郁代	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	豊岡短期大学指定テキスト	
評価方法	提出物・レポート課題・試験結果を総合的に判断する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス／造形表現の意義
2	幼児造形表現の特徴について	子どもの絵の発達の基本と道筋について学ぶ
3	こどもの絵の発達について	「なぐりがきの時期」から「象徴機」「図式期」までのこどもの絵の発達について学ぶ
4	造形指導について	こどもへの関わり方や指導・援助の留意点について学ぶ
5	造形あそびについて	造形あそびの種類と内容／造形あそびにおける指導・援助について学ぶ
6	絵画と版画の表現と技法について	スケッチ、デザインとは？／絵の構造について学ぶ／版画の種類と手法について学ぶ
7	立体表現と技法について	紙による立体造形について、加工方法や技法の組み合わせについて学ぶ
8	造形活動の環境づくりについて	表現活動における環境構成の大切さを学ぶ

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	人間関係論	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	レポート：領域「人間関係」の基礎理論を理解し、関係発達論的な視点から論じることができる。 科目試験：こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解する。
授業担当者	井上　充子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	「人間関係論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）	
評価方法	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （レポート評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	領域「人間関係」	ねらいと内容　・領域の相補性（保育活動の総合性とは）
2	人間関係と取り巻く社会環境①	少子高齢化　・家族の変化
3	人間関係と取り巻く社会環境②	身近な環境の変容　・メディアの変化
4	人間関係をつむぐこどもの発達	規範意識と道徳性の芽生え（育ち）　・ルール、決まり事の意味と意義
5	人間関係をつむぐこどもの発達	自立心、協同性の芽生え（育ち）　・自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）
6	人間関係とこどもの遊び	遊びの中で育つ乳児の人間関係　・遊びの中で育つ幼児の人間関係
7	人間関係とこどもの生活	家庭とのかかわりとこどもの発達　・地域とのかかわりとこどもの発達
8	今日的な人間関係の課題	多様な文化のこどもと気に留めたいこどもについて

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	音楽表現論	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	レポート及び科目試験：感性と表現に関する領域「表現」を理解し、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。
授業担当者	小関 宏美	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・音楽表現論（配本テキスト）　・幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ・保育所保育指針解説（フレーベル館）　・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）	
評価方法	・学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） ・科目の成績評価：科目試験の結果により判定し、評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解
2	「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解	イメージを表現する為の音や音階の理解
3	日本のこどもの歌と歴史的背景の理解	時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析
4	領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解	身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践
5	保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解	幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践
6	部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案	身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践
7	乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解	ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践
8	家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ	園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	言葉とこどもの文化	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	本授業は、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。
授業回数	8回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	レポート：領域「言葉」を踏まえ、児童文化財とことばの習得について述べることができる。 具体的な児童文化財の分析と考察を多角的にすることができる。 科目試験：幼児期のことばの特徴について理解し、言語教材としての児童文化財の具体的な利用方法を述べることが出来る。
授業担当者	井上 充子	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	・「言葉とこどもの文化」（配本テキスト）　・「幼稚園教育要領解説」(最新版) ・「保育所保育指針解説」(最新版)　・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)	
評価方法	・学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） ・科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ことばの機能と言葉の発達	・人間とことば、幼児とことば　・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割
2	領域「言葉」のねらい及び内容	・ことばの発達と保育者の役割
3	ことばを育てる児童文化財①	・児童文化財について
4	ことばを育てる児童文化財②	・紙芝居 ・おはなし
5	ことばを育てる児童文化財③	・ペープサート ・シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）
6	ことばを育てる児童文化財④	・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび
7	ことばを育む教材	・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究
8	幼保小連携について	幼保小の定義と取り組みについて

シラバスデータ			2023/4/1
科目名	こどもの表現と技法Ⅰ		
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	幼児の生活する姿の中から発達の実情を理解し、適切な環境を幼児の生活に沿って構成し、豊かな感性をはぐくむ幼児の活動が充実するよう援助する方法を学ぶ。	
学年	1年		
コース	ー	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・幼児が興味関心を抱き、主体的に関われる環境構成の工夫。 ・幼児の表現意欲を高めるための援助の工夫。 ・保育の展開の基礎を理解し、実習等の実践につなげる技術を身につける。	
授業回数	15回		
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	こどもの発達に必要な経験が積み重ねられるような環境を考えると共に、人的環境としての保育者の役割の重要性を理解する。	
授業担当者	井上充子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	授業態度、制作物等を総合的に評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス 壁面制作	秋（10月）の壁面制作
2	職場体験に向けての教材制作	フェルト指人形の制作
3	造形表現 「自己紹介」①	保育所向き自己紹介アイテムの立案と制作
4	造形表現 「自己紹介」②	保育所向き自己紹介アイテムの制作と実演
5	壁面制作	冬（11月）の壁面制作
6	言語表現 子どもの発達と児童文化財①	「保育現場での実践にむけて」 手袋シアター作成① 『作案』
7	言語表現 子どもの発達と児童文化財②	「保育現場での実践にむけて」 手袋シアター作成② 『制作』
8	言語表現 子どもの発達と児童文化財③	「保育現場での実践にむけて」 手袋シアター作成③ 『制作』
9	言語表現 子どもの発達と児童文化財④	「保育現場での実践にむけて」 手袋シアター 『発表会』
10	壁面制作	冬（12月）の壁面制作
11	素材に触れて楽しむ	新聞紙遊び／グループワーク
12	壁面制作	冬（1-2月）の壁面制作
13	年齢に合わせた制作	乳児向け『手作り玩具』の立案・制作
14	年齢に合わせた制作	乳児向け『手作り玩具』の制作・実演

15	壁面制作	春(3-4月)の壁面制作

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	ペン字	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	日ごろから正しい文字を書く習慣をつけ、実社会においても読みやすく美しい字が書けるようにする。
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	通年	書に関する理論的なことも実技と合わせて学習しながら、文部省認定の硬質書写技能検定3級合格を目指す。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	文部省認定の硬質書写技能検定3級合格を目指す。
授業担当者	澤本 美佐乃	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	テキスト：『漢字の上手な書き方練習帳』 ノート：方眼、縦罫線、横罫線、無地の4種類を使用。 検定対策については、随時過去問題プリントを配布する。葉書、和紙等の素材も使用。	
評価方法	授業態度、提出物、学期末試験の成績、検定取得状況で総合的に評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習の準備と要点、楷書の基本
2	基本点画	文字の線のルールについて
3	平仮名と片仮名について	平仮名、片仮名の基本練習
4	楷書	字形のルール、筆順、漢字の部首名
5	実用書式練習①	横書き文章の作成　アルファベット、数字の基本練習
6	実用書式練習②	ハガキの宛名の書き方
7	楷書と行書	楷書と行書の書き分け
8	実用書式練習③	漢字、仮名交じり文（縦書き）の練習①
9	実用書式練習④	漢字、仮名交じり文（縦書き）の練習②
10	実用書式練習⑤	ポスター作成
11	理論問題対策①	草書を読む
12	理論問題対策②	草書を読む。常用漢字の訂正。部首名。筆順問題
13	総合テスト対策①	硬筆検定三級の実技問題、理論問題のプレテスト①
14	総合テスト対策②	硬筆検定三級の実技問題、理論問題のプレテスト②
15	総合テスト対策③	硬筆検定三級の実技問題、理論問題のプレテスト③

シラバスデータ			2023/4/1
科目名	社会人基礎学		
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	自らの職業観の概念の形成を前提に、ビジネス常識および、基本的なコミュニケーション、情報の利活用など、将来職業人として適応するための知識を身に付ける。	
学年	1年		
コース	ー	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	・充実した職業人生を送る為に、人間力・社会人基礎力をしっかりと身につける。 ・社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力の習得を目指す。	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	4単位	・ビジネス能力検定3級及び、社会人常識マナー検定3級の取得を目指す。	
授業担当者	伊藤　知圭子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	・ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト　　・ビジネス能力検定ジョブパス3級公式試験問題集 ・社会人常識マナー検定　公式テキスト		
評価方法	授業態度、提出物、検定取得を総合的に評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ビジネス能力検定の概要を知り、科目の目的を理解する。
2	キャリアと仕事へのアプローチ	働く意識、社会の一員として社会を支える当事者であることを自覚する
3	仕事の基本となる8つの意識	仕事の基本となる8つの意識の重要性を理解する
4	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	円滑なコミュニケーションのためマナーを学び、意思疎通の重要性を理解する
5	指示の受け方と報告、連絡、相談	指示、報告、連絡、相談の関係を学び、ポイントを理解する
6	話し方と聞き方のポイント	敬語の必要性を理解し、ビジネスにふさわしい話し方、聞き方を学ぶ
7	来客応対と訪問の基本マナー	来客対応、訪問、面談の基本を学び、基本手順を身につける
8	会社関係でのつき合い	会食のマナー、業務終了のつき合いと冠婚葬祭の基本を学ぶ
9	仕事の取り組み方	仕事をする上で必要な自己管理や仕事の進め方を学ぶ
10	ビジネス文書の基本	ビジネス文書の種類と形式を学び、作成の方法を理解する
11	電話対応	電話対応の特性、配慮、心構えを理解する
12	統計・データの読み方・まとめ方	表・グラフの役割、特徴、読み方、作り方、まとめ方を学ぶ
13	情報収集とメディアの活用	情報の取捨選択方法、扱い方を学ぶ

14	過去問題	B検の過去問題に取り組み、検定試験に備える
15	検定振り返り	受験した検定試験を自己採点し、振り返る
16	組織と役割	会社組織の成り立ちを理解し、リーダーとフォロワーに必要なものを知る
17	社会の変化	多様な雇用形態を知り、変動する社会に対応する力を身に付ける
18	仕事と目標	目標が持つ意味、重要性を理解する
19	主体性と組織運営	社会の一員として、社会を支える当事者であることを自覚し、目的意識を持つ
20	幅広い社会常識	政治・経済や税金・社会保障に関連する基礎知識を身に付ける
21	社会常識の知識	日常生活に浸透するカタカナ用語や欧文略語などのキーワードを身に付ける
22	ビジネス計算	ビジネスにおける計算力の重要性を理解し、演習を通して分析力・思考力・応用力を身に付ける
23	ビジネスにおけるコニュニケーション	意思疎通の重要性を理解し、良い人間関係のためのコミュニケーションを身に付ける
24	コミュニケーション向上のポイント	第一印象の重要性を理解し、良い人間関係のためのコミュニケーションを身に付ける
25	敬語を使いこなす	尊敬語、丁寧語、謙譲語を使い分け、職場での言葉遣いを身に付ける
26	TPOやしきたりを踏まえる	弔事のマナー、病気見舞いの思いやる気持ち、状況を踏まえつつ相手に気持ちを伝え方を理解する
27	受発信文書の適切な取り扱い	文書類の受け取りや発送、特殊郵便物・大型郵便物・宅急便の取り扱いを身に付ける
28	職場環境を整える	オフィス環境と事務機器の取り扱いを学ぶ
29	情報を適切に管理する	文書類の保管、秘文書の取扱い、日程管理、押印の重要性を理解する
30	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	礼法・茶華道	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	子ども心理学科	日本人の心が生み出した茶道といけばな、接遇マナーを通じ、精神と人格の形成を図る。また、生活環境が変化し、本当の自然にふれる機会を失いつつある今日、生きた草花に触れ、その草花を使って美的な感覚を養い、生活の中に自然を取り戻す。小原流華道初等科許状取得を目指す
学年	1年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	通年	華道 … 小原流の基礎の形の修得（全１０回） 礼法・茶 … 日本茶に始まり、日本文化のマナー修得（全4回）
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	授業全体の流れの中では、社会人としての基本的マナーを理解させる。 華道、茶道では、四季折々のものを取り入れ、「相手に喜ばれるにはどうしたらよいのか」相手の立場が考えられるよう思いやりの心を身につけさせる。
授業担当者	澤本　美佐乃	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	いけばなの基本 財団法人 小原流本部、ビジネスマナー検定3級テキスト、女性の美しいマナー辞典 美しい食事のマナー、あなたの人生を変える日本のお作法、静岡県の冠婚葬祭マナーBook 等 補足事項については、随時プリントを配布する	
評価方法	授業態度、出席状況及び学期末試験の成績で総合的に評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	華道	基礎花型「たてるかたち」
2	華道	基礎花型「たてるかたち」
3	華道	基礎花型「たてるかたち」
4	華道	基礎花型「たてるかたち」
5	華道	基礎花型「たてるかたち」
6	華道	「かたむけるかたち」
7	華道	「かたむけるかたち」
8	華道	「かたむけるかたち」
9	華道	「かたむけるかたち」
10	華道	「かたむけるかたち」
11	茶道	お煎茶の基本、茶葉別美味しいお茶の入れ方
12	茶道	お客へのお茶、お菓子の出し方、マナー、茶菓子のいただき方
13	礼法	訪問マナー
14	礼法	冠婚葬祭マナー（服装、タブー、ふくさ、祝儀不祝儀）
15	まとめ	試験対策

シラバスデータ			2023/4/1
科目名	職場体験		
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい	
学科	子ども心理学科	＜1年次＞ 職場体験にあたり、心構えを学習する。幼稚園・保育所の生活に参加し、幼稚園教諭・保育士の仕事の実際を体験することで、子どもと関わる仕事のイメージ化を図る。 ＜2年次＞ 保育所保育の意義を知り、乳児の特性を理解し、実習に生かせる知識・技術を学ぶ。	
学年	1年・2年		
コース	ー	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	①幼稚園での1日の流れと保育者の業務を体験する。（1年次・第一ひかり幼稚園8時間） ②自らが希望する保育所において、1日の流れと保育者の業務を体験する。また、実習のイメージを持つ。（1年次・保育所40時間） ③小規模保育園での1日の生活の流れ、子どもの様子を知り、部分実習を行うことで、環境構成・声掛け・援助の方法などの大切さを学ぶ。（2年次キッズハウスひかり7時間）	
授業回数	48時間		
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	1単位	実習に向けて、自己の課題を明確にする。	
授業担当者			
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	なし		
評価方法	出席率、受業態度、提出物を総合的に評価する。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
		＜1年次＞ ○第一ひかり幼稚園8時間体験 1．幼稚園の目的を知る　学校教育法、教育課程 第一ひかり幼稚園を知る 2．　1日体験 3．　事後指導 ○保育所体験40時間 4．　保育所の目的を知る児童福祉法、保育課程 5．　5日体験 6．　事後指導 ＜2年次＞ ○キッズハウスひかり7時間体験 1．　1年次の職場体験の反省から今年度の目標を決める 2．　保育園の種類・保育士の仕事について 3．　小規模保育園の1日の流れを知る 4．　1日体験 5．　事後指導